

子どもを「自立」へ導き、「成長」を促す

受験期の コミュニケーション



子どもが自分の将来を見据えて進路を考えることは、大人へと成長するための大切なステップです。

大学受験は、その良いきっかけになります。

子どもの「自立」と「成長」を適切にサポートする

コミュニケーションについて考えましょう。

受験期は、子どももの「自立」と 保護者の「子離れ」のチャンス

将来を考えた大学選びで

「自立」への第一歩を踏み出す

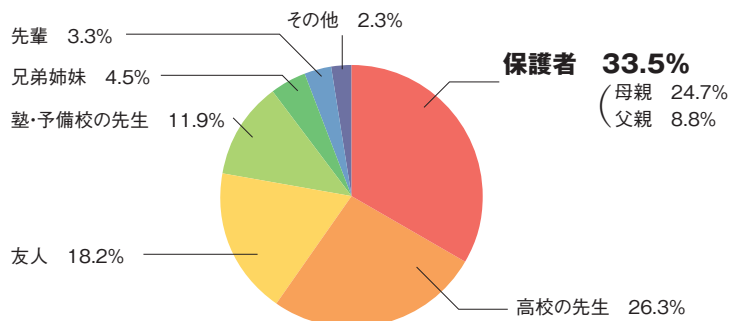
子どもたちにとって大学受験は、将来にかかわる重要な決定をする最初の経験です。子どもが自分の将来を考え、志望校を選ぶことは「自立」への第一歩につながります。

受験を取り巻く環境は大きく変化しています。保護者の時代と違って、18歳人口が減少し、入学定員充足率（入学者数÷入学定員）が100%に満たない、定員割れを起している大学も少なくありません。大学選びは、入れる大学から入りたい大学へと変わってきているのです。進学チャンス拡大というメリットはありますが、将来について深く考えず、なんとなく大学に入るといふ安易な進路選択をする子どもも増えています。

将来をよく考えず、目標もないまま進学した子どもは、意識は高校生のまま学生生活を過ごし、就職活動の時期を迎えがちです。大人としての自覚がなく、就職先を安易に考えてしまつては、仕事が長続きしないのも無理はありません。事

■ 志望校選びや受験に関する悩みを誰に相談しましたか？

『大学発見ナビ』シリーズ2010アンケート（大学生）より





実、大学新卒者の約30%が3年以内に離職しています。大学は、子どもが社会に出る「自立」の準備をする場であるという認識を保護者が持つことが大切です。

受験期は、子どもが自分の将来を真剣に考えて決断し、目標に向かって精いっぱい努力をする時です。そのために、保護者は「子離れ」を意識し、子どもが自分で進路を考え、自分で決められる環境を整えることが重要なのです。

成功のカギは、子どもとの適切なコミュニケーション

理想は、子どもが自分自身で将来や進路を決めることです。しかし、「自立」へのスタート地点に立ったばかりの子どもに一人で将来や進路を考え、決めさせるのもなかなか難しいでしょう。狭い視野でしか進路を考えられなかったり、不安に陥ったりするかもしれません。

そこで大きな役割を果たすのが、人生の大先輩である保護者のアドバイスです。日ごろから話を聞くという姿勢を示し、コミュニケーションをとりましょう。もちろん、一方的に意見を押しつけてはいけません。子どもの希望や考えを基に、幅広い視点でアドバイスをするのが保護者の役割です。

進路選択の主役は子どもです。保護者は、子どもが主体的に進路を考えられるよう、「サポート役」に徹しましょう。



受験期を迎えた子どもとの コミュニケーションの取り方

保護者の時代とは違い、進路選択の環境や入試は大きく変わっています。受験期を迎えた子どもに適切なアドバイスをするためには、今の時代の大学選びと入試について、しっかりと把握しておく必要があります。

保護者がきちんとした知識を持っていれば、子どもの考えを理解したうえで適切なアドバイスができます。子どもの希望を受け止めたうえで意見を伝えるようにすると、子どもは「自分の意見を尊重してくれている」と感じ、保護者の意見を参考にする方向へと向かいます。それが、進学意識と学習意欲を高めることにもつながります。自ら納得して進路を選んだという意識があれば、自然に努力をするものです。大学進学後の学業にも、積極的な姿勢で臨めるはずですが。

また、受験期は生活リズムが乱れて体調を崩したり、ストレスで精神的に不安定になったりしがちです。適切なアドバイスはもちろん、生活面や健康面のサポートも、子どもにとって心強いものです。保護者は、受験勉強と休息のバランスに十分気をつけましょう。ただし、過敏に接するのではなく、あくまでも普段どおりを心がけること。受験期を迎え、張り詰めた空気の中にいる子どもにとって、いつもと変わらない家庭こそが安らぎの場所になるのです。

ほんなときどきする!?!

① 子どもが進路をまじめに考えない

進路についてまったく考えていないように見える場合には、時には保護者が背中を押すことも必要です。いきなり進路の話をするのではなく、食事の際などに、子どもの興味あることについて話しながら、それとなく将来の話と結びつけ、進路を意識させる方向へ持っていくといいでしょう。

② 受験のことを話すきっかけが見当たらない

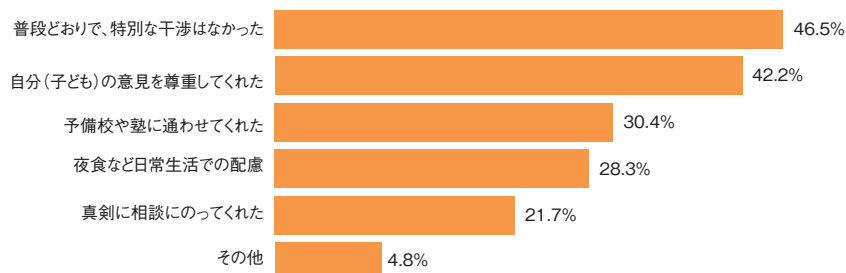
三者面談などの学校行事は、子どもの考えを聞き出す良いきっかけになります。進路選択の重要なポイントでもあるので、その機会は逃さず利用したいものです。また、子どもは悩みを抱えているときには、自然に保護者に近寄ってきます。子どもが発するサインをとらえたら、保護者から声をかけましょう。自発的に相談しに来たときには、どんなに忙しくても手を止めて話を聞いてください。考えを打ち明けられれば気持ちも落ち着き、保護者への信頼も深まります。

③ 子どもと意見が合わない

進路について子どもから想定外の希望を打ち明けられることもありますが、頭ごなしに否定してはいけません。子ども

■ 保護者にしてもらってうれしかったことは何ですか？ (複数回答)

『大学発見ナビ』シリーズ2010アンケート(大学生)より





が自分の将来と真剣に向き合い始めた証拠です。実際に仕事をもち、家庭を築いている社会人として、幅広い視野からアドバイスすることが大切です。

例えば「ファッション業界で働きたい」という漠然とした希望であった場合、「デザイナーのほかに、広報や宣伝の仕事もある」「芸術系以外にも学べる学部や学科がある」といった視点で、進路選択の幅を広げるヒントを与えるといいでしょう。正確な知識に基いたアドバイスでの確にサポートして、子どもが納得できる進路へと導くことが重要です。

進学先によって必要な費用は大きく変わるので、家計の状況についても、遅くとも夏休みまでには伝えておきましょう。子どもは意外に家計のことを気にしているものです。必要であれば、奨学金や大学の支援制度、特待生入試などの利用を検討して、経済的な問題を早めにクリアしておけば、子どもは安心して受験勉強に集中できます。

④ 子どもの学力が、なかなか上がらない

受験勉強を始めてすぐのころは、なかなか結果が出にくいものです。現役生はコツコツと勉強していれば、秋以降に必ず成果が表れます。現段階の成績で、安易に第1志望校を変更することは避けてください。子どもがきちんと計画を立てて勉強しているようなら、信じて見守り、干渉しすぎないようにすることが大切です。

■ 「成績が上がった」と初めて実感したのはいつごろですか？

【大学発見ナビ】シリーズ2010アンケート(大学生より)

